

防災のヒント 16

糸魚川市駅北大火のような災害は、いつどこで起きてもおかしくありません。いざという時に自分の身を自分で守れるように、また、少しでも災害を防ぐことができるように、日頃から防災知識を身につけていきましょう。

「春の火災予防運動」特集 ～ みんなで防火に備えよう! ～

春は、強風が吹きやすくなり、火災が発生しやすい季節です。日頃から防火対策を心掛けて、火災のないまちを目指しましょう。



●セルフ防火診断してみましょう!

- コンロの近くに、燃えやすいものは置いていませんか?
- 家族全員が、消火器のある場所や使用期限を把握出来ていますか?
- 住宅用火災警報器は適切な場所に付いていますか?(寝室や階段)



4月4日(日)、市全域で消防団員が一般家庭を訪問し、防火診断を実施。消火器と住宅用火災警報器の設置や交換の啓発を行いました。いざという時、自分の命と大切なひとを守れるよう、確認しておきましょう。



路地が狭い能生小泊地区

●木造住宅の密集する地区で火災想定訓練を実施 3月28日(日) 能生小泊地区

駅北大火では、幅員が4メートルに満たない狭い道路が多くあったことや、間口が狭くて奥行が長い、古くからの町屋風の木造家屋が密集していたこと等も延焼拡大の原因となっています。市内には同様の特性が見られる地区があります。駅北大火を教訓に、能生小泊地区で火災想定訓練を実施しました。今後も、市民や地域、関係団体等が連携し、火災に強いまちづくりの活動を広げていきます。



最先着隊が通報者または火元関係者を呼び出します。通報者は落ち着いて状況を説明しましょう。



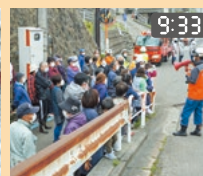
現場指揮本部を配置。風速から延焼範囲を予測できるシミュレーターを使い、作戦をたてます。



住民や消防団等、全員の協力が重要となります。



高齢者や介護が必要な方には、リヤカーを使って避難誘導します。周りの援助が必要です。



警察署員や消防団員の誘導指示に従い、速やかに指定場所に避難します。



現場の最高指揮官である消防署長が、「鎮圧」「鎮火」を判断します。



消防本部では、まちの安全・安心のため、火災の予防を呼びかけるとともに、有事の際に慌てず行動できるよう、地域や自主防災組織・関係機関と連携を取りながら、様々な取組を進めています。(編集部S)